

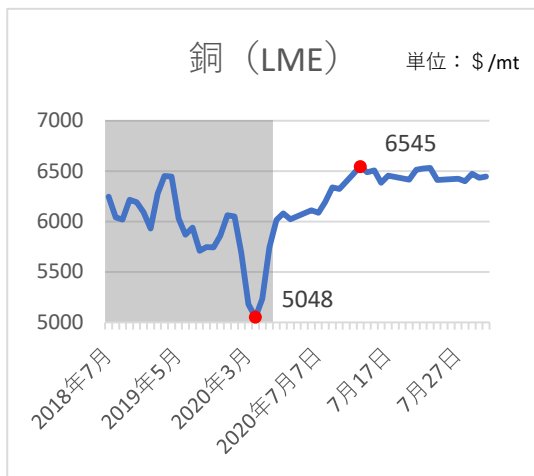
# 非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

## 銅

### 【海外】

#### 1. 価格推移



- ・ COVID-19 感染拡大からの経済活動再開やチリでの供給懸念により 7月中旬以降は\$6,500 近辺に上昇
- ・ 7月13日、2019年3月以来の高値となる\$6,545

(2018年7月～2020年6月の値は月平均)

#### 2. 需給動向

国際銅研究会(ICSG)の7月21日発表によると、2020年1～4月の世界の銅需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～4月の世界の銅需給実績表>

単位: 千トン

	2020年1～4月 実績	2019年1～4月 実績	増減率	2020年年間予測 (2019年10月発表)
鉱石生産	6,512	6,521	-0.1%	20,921
地金生産	7,825	7,786	+0.5%	25,281
地金消費	7,766	7,968	-2.5%	25,000
需給バランス	+59	-181		+281

(うち、中国の銅需給実績)

	2020年1～4月 実績	2019年1～4月 実績	増減率
鉱石生産	532	535	-0.7%
地金生産	3,110	3,159	-1.6%
地金消費	4,015	4,050	-0.8%

(出典) 国際銅研究会

その他、国際銅研究会の主なコメントは以下の通り。

#### 【鉱石生産】

- ・ チリは、2019 年のチュキカマタ鉱山操業中止による生産制限などから回復し 3.8%増加
- ・ ペルーは、COVID-19 感染拡大の規制による操業中止や悪天候、操業トラブルなどの影響により 4 月単月で 33.4%減少し、1~4 月は 17.4%減少
- ・ 中国は、COVID-19 感染拡大の規制による操業中止で 0.7%減少
- ・ コンゴ民主共和国(DRC) は、一部鉱山の生産能力増強により 3.5%増加

#### 【地金生産】

- ・ チリは、2018 年 12 月~2019 年 7 月にチュキカマタ製錬所が新しい環境規制に対応するために操業を中止していたことから 11.5%増加
- ・ 中国は、COVID-19 感染拡大の規制による操業停止やスクラップ供給の逼迫などにより 1.6%減少
- ・ 日本は、2019 年に直島製錬所が定修を行っていたことから 5.4%増加

#### 【地金消費】

- ・ 中国はネット輸入が 7%増加したが、製造業が COVID-19 感染拡大の規制を受け見掛け消費(未報告在庫の増減を除外)は 0.8%減少
- ・ 主要消費国の中では EU は 7.6 万t減少(7.2%減)、米国は 3.7 万t減少(5.9%減)、日本は 1.8 万t減少(5.7%減)

### 3. 供給障害

#### ◆ BHP、セロ・コロラド銅鉱山の事業縮小(チリ)

BHP(豪/英)は 7 月 1 日、チリのセロ・コロラド銅鉱山の事業を縮小することを発表した。今後 4 か月間で操業の縮小と人員の削減を行う。同社は、COVID-19 による経済の不安定な状況が続く中で、事業を継続するためのやむを得ない措置であると述べた。ただし、今後も操業は続けるため、自社の公約に従い 2023 年以降は取水を地下水から海水に切り替えるとしている。セロ・コロラド銅鉱山は 2019 年に 7.2 万tの銅を生産している。

#### ◆ アントファガスタ、サルディバル銅鉱山とセンチネラ銅鉱山のスト回避(チリ)

アントファガスタ(チリ)のサルディバル銅鉱山の労働組合は 7 月 10 日、投票により組合員の 99%がスト実施に賛成したことを発表。同じくセンチネラ銅鉱山の労働組合も 7 月 13 日、組合員の 95%が賛成したことを発表した。どちらも COVID-19 の感染が拡大する中で操業を行っていることに対して賃上げを求めた。その後、7 月 25 日のロイター発表によると、サルディバル銅鉱山の労働組合は会社側と合意に達しストライキを回避。また、7 月 28 日のロイター発表によると、センチネラ銅鉱山の労働組合も会社側と合意に達しストライキを回避した。2019 年にサルディバル銅鉱山は 11.6 万t、センチネラ銅鉱山は 27.6 万tの銅を

生産している。

◆ 中国で続く大雨、銅精鉱供給に遅れ(中国)

中国応急管理部は7月28日、6月から続く大雨による水害の経済損失が中国全土で1,400億元(200億USD)以上に達していることを発表した。また、中国建設銀行は大雨による銅生産への影響について、銅鉱山に対する影響は限られているものの、銅精鉱の供給に影響が出ていると述べた。江西銅業(Jiangxi Copper、中国)はこの大雨により輸送に遅延が生じていることから、第3四半期の銅精鉱供給が減少する見込みであるとしている。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

7月1日	7月7日	7月10日	7月14日	7月17日	7月22日	7月29日
690	700	720	740	730	750	730

2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2020年6月分=令和2年6月分)

	2020年6月	2020年5月比	2019年6月比
生産	131,993 t	-0.5%	+1.9%
出荷	132,544 t	+11.4%	-6.3%
在庫	117,106 t	-0.5%	+10.2%

(出典)日本鉱業協会受払

2020年6月の銅地金生産は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は3か月ぶりの増加となった。出荷は前月比が2か月連続の増加、前年同月比は3か月連続の減少。内訳は内販が前月比4.4%増、前年同月比27.7%減の6.1万tで、それぞれ2か月ぶりの増加と12か月連続の減少。輸出は前月比18.1%増、前年同月比25.8%増の7.1万tで、それぞれ2か月連続の増加と7か月連続の増加。内販のうち電線向けは前年同月比24.5%減の4.1万tで9か月連続の減少、伸銅品向けは34.7%減の1.9万tで15か月連続の減少。在庫は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は6か月連続の増加となった。

3. 需要部門別動向

(一社)日本電線工業会によると、2020年6月の銅電線出荷は前年同月2019年6月比11.2%減の5.0万t(推定)と9か月連続で減少した。うち内需は前年同月比10.9%減の4.9万tで5か月連続の減少、輸出は21.8%減の1,100tで6か月連続の減少。内需の部門別では、通信が3か月連続、電力が3か月ぶりの増加、電気機械が22か月連続、自動車が3か月連続、建設・電販が5か月連続の減少となった。

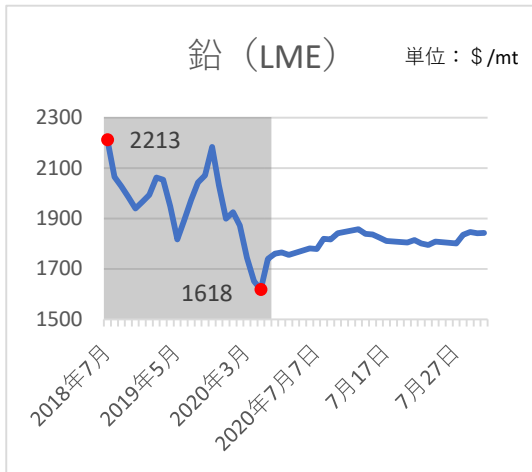
(一社)日本伸銅協会によると、2020年6月の伸銅品生産は前年同月2019年6

月比 29.1%減の 4.6 万t(速報)と19か月連続の減少となった。品種別には、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が前年同月比 24.6%減で 2 か月連続の減少。自動車端子向けの黄銅条は 45.6%減で 17 か月連続の減少。コネクタ向けの青銅板条は 1.2%減で 2 か月連続の減少。エアコン向けの銅管は 27.9%減で 5 か月連続の減少となった。

## 鉛

### 【海外】

#### 1. 価格推移



- COVID-19 感染拡大から経済活動の再開が進み、7 月前半は上昇基調だったものの、その後は \$ 1,800 近辺を推移

(2018年7月～2020年6月の値は月平均)

#### 2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会 (ILZSG) の 7 月 20 日発表によると、2020 年 1～5 月の世界の鉛需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～5月の世界の鉛需給実績表>

単位：千トン

	2020年1～5月 実績	2019年1～5月 実績	増減率	2020年年間予測 (2019年10月発表)
鉱石生産	1,825	1,912	-4.5%	4,940
地金生産	4,647	4,849	-4.2%	11,960
地金消費	4,624	4,854	-4.7%	11,900
需給バランス	+22	-6		+55

(うち、中国の鉛需給実績)

	2020年1～5月 実績	2019年1～5月 実績	増減率
鉱石生産	784	786	-0.2%
精鉱輸入	260	330	-21.3%
地金生産	1,875	1,978	-5.2%
地金輸入	7	78	-91.1%
地金消費	1,918	1,996	-3.9%

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

## 【国内】

### 1. 建値推移(千円/t)

7月1日	7月10日
255	258

### 2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2020年6月分=令和2年6月分)

	2020年6月	2020年5月比	2019年6月比
生産	16,851 t	-7.7%	+5.2%
出荷	14,512 t	+21.1%	-10.8%
在庫	20,791 t	+12.9%	+42.9%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は神岡製錬所の設備トラブルにより前月比は減少、前年同月比は前年に細倉製錬所の定修があったため増加。出荷は輸出の増加により前月比は増加、内需の減少により前年同月比は減少。前年同月比は4か月連続の減少となった。在庫は前月比、前年同月比ともに増加。前年同月比は2か月連続の増加となった。

### 3. 需要部門動向

5月の自動車生産台数は前年同月比61.1%減の308,061台となり8か月連続で前年同月を下回った。また、二輪車生産台数は前年同月比52.9%減の19,311台となり、4か月連続で前年同月を下回った。

(一社)電池工業会によると、5月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、輸出用、二輪車用を合わせた総合計で1,137千個(前年同月比31%減)と8か月連続で減少、自動車用以外の鉛蓄電池も437千個(22%減)と4か月連続で減少した。その結果、鉛蓄電池のトータル出荷は1,574千個(26%減)と8か月連続で減少した。

### 鉛関連製品生産統計(2020年5月分=令和2年5月分)

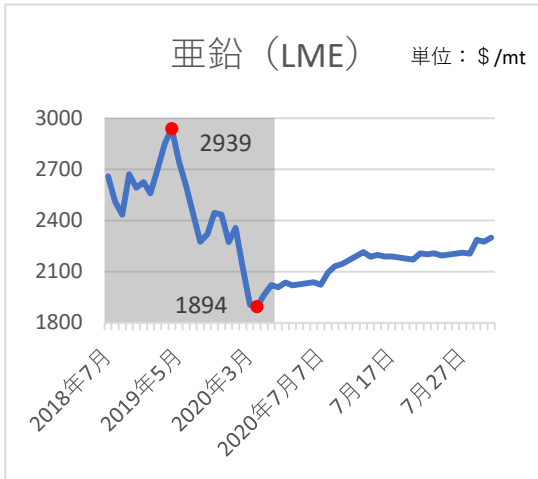
	2020年5月	2020年4月比	2019年5月比
自動車	308,061台	-29.8%	-61.1%
自動車用鉛蓄電池(鉛量 t)	9,092 t	-35.2%	-37.5%

(出典)一般社団法人日本自動車工業会、経済産業省生産動態統計調査

## 亜鉛

### 【海外】

#### 1. 価格推移



- COVID-19 感染拡大から経済活動の再開が進み、上昇基調
- 7月は1か月間で\$300程度上昇

(2018年7月～2020年6月の値は月平均)

#### 2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の7月20日発表によると、2020年1～5月の世界の亜鉛需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～5月の世界の亜鉛需給実績表>

単位：千トン

	2020年1～5月 実績	2019年1～5月 実績	増減率	2020年年間予測 (2019年10月発表)
鉱石生産	4,840	5,189	-6.7%	13,640
地金生産	5,525	5,438	+1.6%	13,990
地金消費	5,302	5,547	-4.4%	13,800
需給バランス	+223	-108		+192

(うち、中国の亜鉛需給実績)

	2020年1～5月 実績	2019年1～5月 実績	増減率
鉱石生産	1,660	1,690	-1.8%
精鉱輸入	863	583	+48.1%
地金生産	2,527	2,380	+6.2%
地金輸入	138	274	-49.4%
地金消費	2,561	2,573	-0.5%

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

## 【国内】

### 1. 建値推移(千円/t)

7月9日	7月14日	7月20日
283	295	289

### 2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2020年6月分=令和2年6月分)

	2020年6月	2020年5月比	2019年6月比
生産	37,421 t	-11.8%	-16.9%
出荷	33,670 t	-1.8%	-20.1%
在庫	79,596 t	+4.4%	+9.0%

(出典)日本鋳業協会受払

生産は飯島製錬所の設備トラブルにより前月比、前年同月比ともに減少。出荷は内需の減少により前月比、前年同月比ともに減少。前年同月比は9か月連続の減少となった。在庫は販売減により前月比、前年同月比ともに増加。前年同月比は10か月連続の増加となった。

### 3. 需要部門動向

5月の亜鉛めっき鋼板生産は前年同月比38.1%減の517千tとなり8か月連続で前年同月を下回った。

(一社)日本伸銅協会によると、2020年5月の伸銅品生産は前年同月比22.2%減の48,168t(確報値)と18か月連続の減少となった。黄銅製品では、黄銅条が33.9%減の5,521tで16か月連続の減少。黄銅棒が20.1%減の11,637tで4か月連続の減少となった。

### 亜鉛関連製品生産統計(2020年5月分=令和2年5月分)

	2020年5月	2020年4月比	2019年5月比
亜鉛めっき鋼板	517千t	-13.0%	-38.1%
黄銅製品	19,218 t	-19.1%	-26.1%
亜鉛ダイカスト	584 t	-46.1%	-59.1%
酸化亜鉛(亜鉛華)	3,924 t	-5.1%	-23.1%

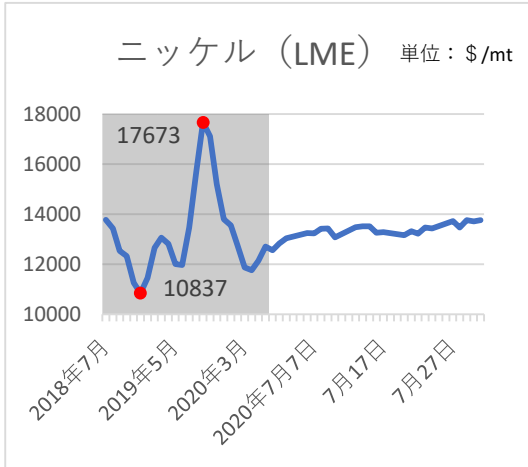
(出典)一般社団法人日本鉄鋼連盟、経済産業省生産動態統計調査



## ニッケル

### 【海外】

#### 1. 価格推移



- ・ COVID-19 感染拡大から経済活動の再開が進み、上昇基調
- ・ 7月は1か月間で\$1,200程度上昇

(2018年7月～2020年6月の値は月平均)

#### 2. 需給動向

国際ニッケル研究会 (INSG) の7月17日発表によると、2020年1～5月の世界のニッケル需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～5月の世界のニッケル需給実績表>

単位: 千トン

	2020年1～5月 実績	2019年1～5月 実績	増減率	2020年年間予測 (2019年10月発表)
鉱石生産	886	981	-9.7%	—
地金生産	962	954	+0.9%	2,476
地金消費	905	985	-8.2%	2,522
需給バランス	+57	-32		-47

(うち、中国のニッケル需給実績)

	2020年1～5月 実績	2019年1～5月 実績	増減率
鉱石生産	43	42	+2.2%
地金生産	283	324	-12.5%
地金消費	500	522	-4.2%

(出典) 国際ニッケル研究会

## 【国内】

### 1. メタルニッケル生産・出荷・生産者在庫(2020年6月分=令和2年6月分)

	2020年6月	2020年5月比	2019年6月比
生産	4,786 t	+6.5%	+12.0%
出荷	4,096 t	+18.3%	-4.0%
在庫	5,444 t	+14.5%	+93.9%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比、前年同月比ともに2か月連続の増加。出荷は前月比が3か月ぶりの増加、前年同月比は2か月連続の減少。出荷の内訳は特殊鋼向けが前年同月比36.4%減の852tで2か月連続の減少。在庫は前月比、前年同月比ともに2か月連続の増加となった。

### 2. フェロニッケル生産・出荷・生産者在庫(2020年6月分=令和2年6月分)

	2020年6月	2020年5月比	2019年6月比
生産	2,925 t	-18.2%	-34.0%
出荷	2,496 t	-17.3%	-41.9%
在庫	8,446 t	+5.4%	+42.9%

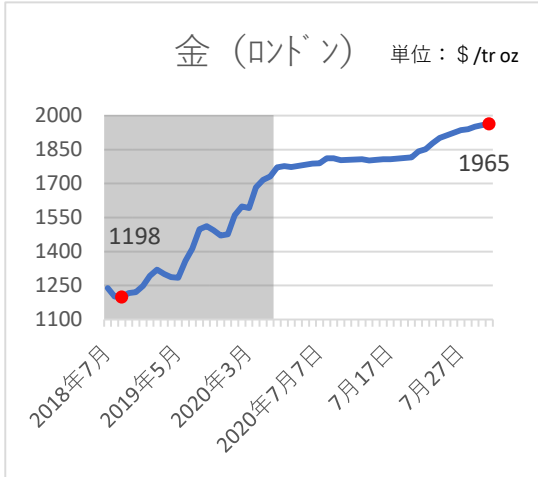
(出典)日本鉱業協会受払(ニッケル含有量ベース推計値)

生産は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は4か月連続の減少。出荷は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比が6か月連続の減少。在庫は前月比が2か月連続の増加、前年同月比は23か月連続の増加となった。

## 金

### 【海外】

#### 価格推移



- 安全資産とされる金の相場は依然として高水準
- 7月24日以降、2011年9月の史上最高値を更新中、7月31日に\$1964.90

(2018年7月～2020年6月の値は月平均)

### 【国内】

#### 1. 建値推移(円/g)

7月1日	7月2日	7月3日	7月6日	7月7日	7月8日	7月9日	7月10日
6,208	6,139	6,166	6,166	6,187	6,238	6,264	6,229
7月13日	7月14日	7月15日	7月16日	7月17日	7月20日	7月21日	7月22日
6,220	6,227	6,267	6,253	6,228	6,269	6,289	6,415
7月27日	7月28日	7月29日	7月30日	7月31日			
6,550	6,710	6,645	6,610	6,610			

#### 2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2020年6月分=令和2年6月分)

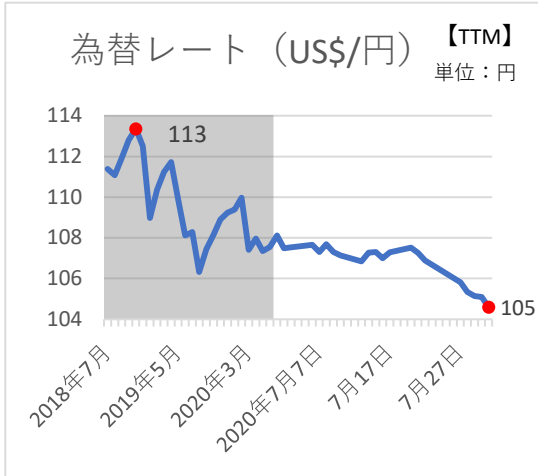
	2020年6月	2020年5月比	2019年6月比
生産	8,813kg	+4.2%	+1.9%
出荷	8,981kg	+10.6%	-7.5%
在庫	4,062kg	-4.0%	-3.9%

(出典)経済産業省生産動態統計調査

生産は前月比が2か月連続の増加、前年同月比は2か月ぶりの増加となった。出荷は前月比が3か月ぶりの増加、前年同月比は2か月連続の減少となった。在庫は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は3か月連続の減少となった。

## 為替相場

### 為替相場推移



(2018年7月～2020年6月の値は月平均)

- ・ 7月中旬までは\$1=107円台を推移していたものの、下旬は米中関係や米経済指標の悪化によりドル安進行
- ・ 7月31日、\$1=104.6円